

一筆啓上 日本一短い手紙の館 連携

伝えなかった想いがあります。

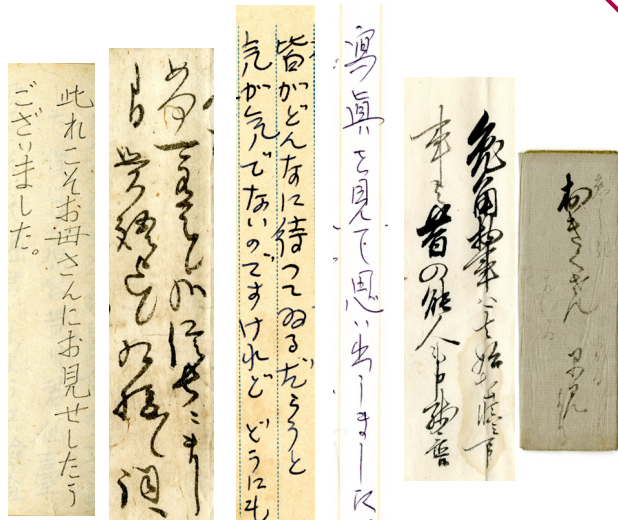
時代をうつす

# 10人の手紙

## 手紙がうつしだす人となり・想い・時代

直筆の手紙はその筆跡によって、書き手の人となりを伝えていきます。また、昔の手紙は、史書をひもとくよりも端的に歴史を語っているものもあります。

展示では、戦国時代から現代にかけての家族、友、恋人の手紙や明治期の清書帳、一筆啓上賞の優秀作品などを紹介します。



## 手紙いろいろ

織田信長の越前一向一揆攻めに備えて鉢伏山で立て籠もっていた賢会は、自分が信長にまさる覚悟でいることを弟に伝えました。

福井藩主 松平慶永は、幼くして養子に出て尾張藩主になる弟のために、藩主としての心得を説いた書状を送りました。弟が置かれた状況をよくわかった上で、きめ細かい心配りをしていることがうかがえます。

だるまや少女歌劇部員は、60年ぶりに自分のブロマイドを見て当時のようすを鮮明に思い出した感慨を生き生きと綴っています。



資料（「資料名」資料群名）		年月日	資料群番号・ 資料番号 (複製本番号)
家 族 へ	一向一揆陣中からの書状 越前一向一揆の指導者層の一人であった専修せんじゅ寺の賢会(けんえ)から、弟の諸江(もろえ)殿に宛てた書状です。織田信長の越前一向一揆攻めに備えて、木ノ芽峠の鉢丸山を守備していた1574年(天正2)10月12日のもので、陣中のようなすがすがしく書かれています。 「専修寺賢会書状」(勝授寺文書)	1574年(天正2)	C0028-00008 (C0168)
	松平慶永(春嶽)から弟への書状 福井藩主 松平慶永(春嶽、当時18歳)から弟の鑑丸(かつまる)(後の徳川慶胤(よしつぐ)、当時10歳)に送ったとされる書状です。幼くして養子に出て尾張藩主になる鑑丸に「家臣から気に入らないことを言われても咎め立てしないこと」など、藩主としての心得を説いています。 「愚存(松平慶永書状写)」(吉野屋文書(当館蔵))	1845年(弘化2)	B0030-00458 (B0162)
	藤野巖九郎から長男への書簡 藤野巖九郎が、東北帝国大学医学部の学生だった長男の恒弥に、夏休みに帰省する際の留意点を伝えた書簡です。周囲への気配りや家族に対する思いやりを大切にすることをやかな心情をうかがうことができます。 「帰省を前にした長男への書簡」(藤野巖九郎家文書(当館寄託))	1935年(昭和10)	C0125-00080 (C1442)
	軍事郵便 日中戦争時、戦地から家族に送ったものです。自分が壮征していることで家族に負担をかけていることをつらく思う胸の内や、自分にかわって朗らかな楽しい家庭を保ってほしいという思いが繰り返して記されており、家族の一員としての責任感が伝わってきます。	1941年(昭和16)	A0055
恋 人 へ	江戸の恋文(男性版) 早見からおきくへ送った恋文です。「あいたさこらへ」「なつかし(慕わしい)」「なみだのかわくひまもなく」など、感情に訴える表現を多用しながら相手を愛しく思う気持ちを伝えています。 「恋文」(福井県立図書館(森家旧蔵)文書)	江戸時代	A0142-01069 (A2380)
	江戸の恋文(女性版) ぬいから、なを太郎へ送った恋文です。相手の心変わりを恨み、仲立ちの人や自分の面目を失うことを訴えています。また、釈明の返事を求めており、相手への未練が読みとれます。 「疎遠二付うらみの書状」(飯田広助家文書(当館寄託))	江戸時代	G0024-05528 (G1648)
友 へ	だるまや少女歌劇部員の手紙 だるまや少女歌劇の部員が、解散の60年後に送った手紙です。部員と長い間音信不通だった大久保さんの手紙には、高田さんから送られた自分のプロマイドを見て当時のようすが鮮明に思い出した感慨が綴られています。 「夢如花会(手紙)」(高田富文書(当館蔵))	1996年(平成8)	A0502-00167

## ☆絵手紙体験

絵の具や色鉛筆を使って、自分だけの絵手紙を描いてみよう♪

期 間：7月16日(土)～8月24日(土) 場 所：文書館閲覧室 (申込不要)